教えて
ドクター！

知っておきたい
健康相談室

大きくなれば危険をともなうことも

卵巣嚢腫

卵巣は女性ホルモンや卵子をつくる女性特有の臓器ですが、
さまざまな腫瘍ができやすいことが知られています。その1つが「卵巣嚢（のう）腫」です。
ほとんどが良性ですが、大きくなるにしたがってつらい症状が現れたり、
破裂して緊急手術が必要になったりする場合もあるため、注意が必要です。

監修 大山 香
おおやま・かおり
対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 勤務
日本産婦人科学会専門医
昭和大学医学部卒業後、昭和大学産婦人科入局。昭和大学付属病院や関連病院を経て、2017年より同クリニック勤務。

Q1 卵巣嚢腫はどのような病気ですか？

A 20～30代に多くみられ4つの種類があります

卵巣は、子宮の左右に1つずつある親指の先ほどの大きさの臓器です。卵巣は胎児のもととなる卵子を育てる役割のほかに、女性ホルモンを分泌する役割をもっています。

卵巣はさまざまな腫瘍ができやすいことが知られています。これらをまとめて卵巣腫瘍といい、悪性と良性があります。良性の病気で多いのが卵巣嚢腫で、20～30代の若い世代に多くみられます。

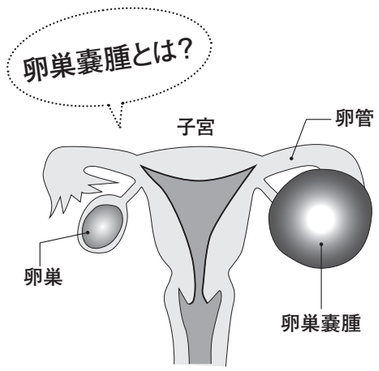
卵巣嚢腫は内容物が入った袋のような腫瘍ができる病気で、次の4種類に分類されます。

▼漿液性嚢腫：サラサラした液体がたまってできる。発症頻度の高い腫瘍の1つ。

▼粘液性嚢腫：ネバネバした粘液がたまってできる。成人の頭ほどの大きさになることもある。閉経後の女性に多い。

▼皮様嚢腫：毛髪や皮膚、歯などの組織がたまってできる＊（左図の下参照）。20～30代の女性に多く、閉経後、まれにがん化することがある。

▼卵巣チョコレート嚢腫（嚢胞）：子宮内膜症による出血がたまってできる。直径が10㎝以上のものは、がん化するリスクが高いといわれている（詳しくは次ページ参照）。



＊皮様嚢腫は、受精していないにもかかわらず卵子の細胞分裂が起きて、できた皮膚や毛髪などの成分がたまって腫瘍化したものと考えられています。

Q2 どのような症状が現れるのですか？

A 初期は無症状でも大きくなると茎捻転や破裂を起こすことが

卵巣は沈黙の臓器ともいわれ、病気になってもなかなか自覚症状が現れません。そのため、婦人科を受診したときに発見されるケースが多くみられます。

進行して嚢腫が大きくなると、外側から触れて気づいたり、下腹部の痛みや違和感、腰痛、頻尿、便秘などが起こったりすることがあります。

また、嚢腫が大きくなると卵巣の根元が回転してねじれる「茎捻転」や「破裂」が起こることがあります。突然、激しい下腹部痛が現れて、ショック状態に陥ることがあり、緊急手術が必要になります。そのため、まずは卵巣嚢腫の有無を知ること、嚢腫がみつかった場合は放置しないことが重要です。

子宮内膜症から生じる卵巣チョコレート嚢腫があると、激しい月経痛が起こります。子宮内膜症とは、子宮の内側を覆う子宮内膜とよく似た組織が本来とは違う場所に発生してしまう病気です。子宮内膜は妊娠が成立しなければはがれ落ち、月経血として膣から体外へ排出されますが、別の場所に発生した子宮内膜組織ははがれても出口がありません。そのため、血液がたまり、炎症や臓器との癒着などが起こってしまうのです。

卵巣チョコレート嚢腫に注意！

卵巣チョコレート嚢腫は、月経のたびに卵巣内に血液がたまり、チョコレート色になることから名付けられました。

良性の腫瘍ですが、**がん化する可能性が1％程度ある**とされています。血液に含まれる鉄分ががん化に関係すると考えられており、卵巣が血液にさらされる期間が長いほど、卵巣がんのリスクは高くなります。

嚢腫が10㎝以上の場合や40歳以上で嚢腫が大きい場合、または嚢腫が急に大きくなった場合は、がん化を防ぐために卵巣摘出の手術が検討されます。

卵巣チョコレート嚢腫は再発しやすいため、治療後も定期的な検査が必要です。**ホルモン療法によって、再発を予防**することもできます。

Q3 検査や治療法を教えてください。

A 内診や超音波検査で診断し必要があれば手術を検討

問診のあと、内診と超音波（エコー）検査で卵巣嚢腫の有無を診断します。超音波検査には経腹（お腹に検査器具を当てる）と経膣があり、まれに経肛門で行うこともあります。超音波検査で腫瘍の形はある程度わかるため、袋状であれば卵巣嚢腫と判断します。しかし、かたまりがある場合は悪性の可能性があるため、MRI検査や腫瘍マーカーなどさらに詳しく調べる検査を行い、最終的には手術で摘出した腫瘍の病理検査によって診断を確定します。

卵巣嚢腫は自然になくなることがないため、適切な時期に手術などの治療が必要になりますが、小さく、無症状の場合は定期的な経過観察で様子を見ることがあります。

手術には開腹手術と腹腔鏡手術の2種類がありますが、近年では体への負担が少ない腹腔鏡手術を選択することが多くなっています。卵巣の嚢腫のみを切除するか、腫瘍のある卵巣すべてと卵管を摘出するか、将来的に妊娠・出産を希望する場合は主治医とよく相談し、納得したうえで受けましょう。なお、卵巣チョコレート嚢腫の場合は、ホルモン療法で腫瘍の縮小を図る場合もあります。

婦人科の検査が苦手な方へ

子宮や卵巣の病気は放置すれば命にかかわる場合があるので、できるだけ早期にみつけることが大切です。そうはいっても、内診が怖い、内診にトラウマがあるなどで婦人科受診に抵抗がある方は少なくありません。

内診が苦手な方には極度に緊張する方が多くみられますので、体に力が入らないように、深く息を吐いたり、別のことを考えて気を紛らわしたりすると楽になることがあります。

また、性行為の経験がない方や膣が狭くて経膣的な検査ができない場合は、経腹超音波検査や経肛門超音波検査を行うことができます。検査に不安がある場合は、あらかじめ医師に伝えておくといいでしょう。